

# ひとり親施策及び生活困窮者施策における学習支援の連携事例について(豊橋市)

## ◆事業のポイント◆

- 個々の子どもの学習記録を作成し、学習意欲や学力の状況を把握することで、ひとり親家庭等及び生活困窮世帯（生活保護世帯含む）の子どもの学習のつまづきを早期にケアし、高校、大学等への進学につなげる。

	生活困窮・生活保護	ひとり親	
事業名称	学習教室ステップ		
対象者	ひとり親家庭、養育者家庭、生活困窮世帯、生活保護世帯の子ども		
実施方式（委託先）	【直営】ひとり親支援・生活困窮支援担当課の双方が所管		
対象年齢	中学生・高校生		
支援員	69名（大学生及び大学院生） ※県内外10大学からの協力		
利用する際の申請先	市福祉事務所のひとり親支援担当・生活困窮世帯支援担当双方の窓口において受付を実施。 ※世帯区分に限らずどちらの窓口でも申請可能		
実施場所	①豊橋市民センター ②豊校区市民館 ③アイブラザ豊橋 ④豊橋市視聴覚教育センター		
実施日・時間帯	①毎週土曜日 13:30～16:30 ②・③隔週土曜日 13:30～16:30 ④隔週土曜日 13:00～16:00		
事業実績	H29利用者数（延べ人数）	306人 中学生：216人 高校生：90人	308人 中学生：262人 高校生：46人
	H30予算額	1,039千円	1,039千円

## 具体的な取組内容

- ひとり親家庭等及び生活困窮世帯の子どもを対象に、気軽に相談できる大学生を講師とする学習支援を行い、学習意欲の喚起、学力の向上を図る。
- 大学生が講師となることで、子どもがより親近感を持って気軽に質問や相談をしやすい環境としている。また学習だけでなく、休憩時間におやつを提供を行い、子どもと歓談しながら生活面の様子を聞き取っている。その他、お楽しみ会を開催する等、気軽に参加できる「居場所」の提供を行っている。

<学習支援の様子>



## 一体的に事業を実施するにあたって工夫していること

### ◇講師（大学生ボランティア）の確保方法

- 豊橋市ホームページや市広報誌において募集を行うとともに、近隣の大学と協力し、市担当者が直接大学に赴き、講師募集に関する説明会を開催している。また、大学の掲示板にチラシを掲載してもらっている。

### ◇ひとり親家庭等支援担当と生活困窮世帯支援担当との連携

- 当事業の利用者及び講師の情報を両担当で共有し、教室運営やシフト調整に活用している。講師採用の面接は、両担当が同席している。

### ◇個々の子どもの学習記録を作成し、子どもの学習意欲や学力に応じた支援を実施

- 「学習記録票」は共通の様式を使用し、学習内容や生活状況を記録できるようになっている。記録をもとに、個々の子どもの状況に応じた学習支援を行うとともに、生活面の状況もあわせて把握することで、各家庭の状況に応じた支援につなげている。
- 毎月、2課が共同で当事業に関する通信を参加者あてに送付し、開講日程・講師紹介・各会場の出席状況・季節のコラム等を掲載し、子どもの出席率向上を図っている。

## 一体的に事業を実施することによる効果

### ◇事業の効率的な実施

- ひとり親家庭等支援担当及び生活困窮世帯支援担当の窓口双方で利用申請を受け付けることで、利用者の利便性の向上が図られる。また、会場数が増えるため、利用者が継続して通いやすい会場を選択でき、利用者数を確保することができる。
- 講師も希望会場を選択することができるため、必要な講師数を確保しやすいとともに、各会場での過不足時など講師の柔軟な配置を行うことができる。また、任用登録や賃金支払など、一括して行える。  
※会場数：4会場（2課合計）、延べ123回開催（平成30年度）

### ◇子どもの学習記録を活用した各種支援との連携

- 学習記録はひとり親家庭等、生活困窮世帯ごとに管理を分けている。各担当会で講師が作成した「学習記録票」は、世帯区分に応じ、各支援担当課に情報提供し、支援につなげている。